

テーマ名 「知床の未来を担う人材の育成」

学校名 斜里町立朝日小学校

校長名 中村 厚志

担当者名 倉田 奈生子

1 活動の趣旨 本校は、「知床の地域の自然や社会、歴史産業、伝統文化等に積極的に触れさせることにより探究的な能力や自己の生き方をはぐくむ学習」を、ESDと位置付け、実践を通して「自然環境と人間の豊かな生活、その共存に向けて創造する力」の育成を目標としている。具体的には、主に総合的な学習の時間を通して「世界自然遺産知床」を柱に、①自然に係わる活動、②福祉に係わる教育、③地域・社会(人と人とのつながり)に係わる学習を行った。

2 活動計画 本校はESDの中心を総合的な学習の時間に位置付け、教育課程に組み込んでおり、平成30年度の学習活動は、

6年～世界自然遺産、生物多様性～自然に係わる学習

5年～福祉に係わる学習

4年～地域・社会（人と人とのつながりに係わる学習）

職員がより主体的にユネスコスクールとしての活動を進められるように、ESD推進教師が計画的・組織的に推進していく

3 活動事例

① 自然に係わる活動～6年生の総合的な学習では『世界自然遺産知床』について、自然と人間社会との共生について深く掘り下げて考え、それらをテーマごとにまとめて自分たちの考えを地域の人に報告する機会をもった。知っているようで知らなかった身近な自然に触れ、改めて自然の偉大さ・優美さに気付くとともに、それらとは異なる一面を目の当たりにした。



②福祉に係わる活動～5年生の総合的な学習では障がい者や認知症を患うお年寄りについて考え、自分自身や社会の中にある「壁」に気付く。関わりをもつ中で、自分たちが「上から目線」「してあげている」という

意識があることに気付き、真の共生とはどんなことかを再考した。学びを生かし学芸会ではそれらのメッセージを多くの人に伝えた。

③地域・社会(人と人とのつながり)に係わる活動～4年生の総合的な学習では、地域の一員としてイベントを盛り上げる活動を行った。地域の方のアドバイスを受けながら春から育てたカボチャを秋に収穫し、そのかぼちゃを使ってイベントを盛り上げるにはどうすればよいかアイデアを出し合った。そして、イベント当日、これまでの総合的な学習で学んできたことや、かぼちゃ栽培の様子を動画にまとめて、地域の方に向けて学習発表をした。また、オリジナルのマフィン100個作り、無料配布すると同時に、「北海道胆振東部地震」の被災地へ送るための募金活動を行った。児童はイベント主催者の協働が進むにつれ、絆が生まれていく中で、自分の住むまちへの愛着が深くなっていく活動となった。

4 成果と課題

まだ、ユネスコスクールに登録されて2年目の今年、「ユネスコスクールとは？」ということからスタートし、少しずつ職員間でESDについて理解する一年となった。また、「韓国政府日本教職員招へいプログラム」に本校教員1名が参加し、韓国の教育システムを学んだり、韓国の教職員・教育関係者との交流を深めたりすることができ、帰国後は児童・教職員への報告会も開いた。しかし、ESDはまだまだ職員全体のものになっていないため、今後も校内研修等で共通理解を図る必要がある。

次年度、①ESDカレンダーの作成 ②ESD研修会の開催、③他校への情報発信・連携、さらに、国内のユネスコスクールや、海外の小学校とも積極的に交流を行いたい。

